



かけこう通信

令和7年度 第5号
令和7年8月18日
島根県立三刀屋高等学校
掛合分校発行(文責:小川)

戦後80年 今こそ「平和を」 ～「折り鶴×シン・アート」ワークショップ～

7月15日(火)1・2限に2年生・1年生のホームルーム活動として、それぞれワークショップを行いました。その内容は、「シン(芯)・アートの花を作成する」「折り鶴とつなげて吊るし飾りを作る」というものです。雲南市では毎年「永井隆平和賞」関連の事業が行われますが、戦後80年の節目となる今年はより多くの方々に関わっていただきたいと市から要請を受け、当日を迎えました。



雲南市三刀屋町は、放射線医学の研究と原子爆弾により白血病に侵されながらも、『長崎の鐘』や『この子を残して』などの名作を著し、「平和を」の願いを全世界へ訴え続けた永井隆博士のふるさとです。三刀屋町では永井博士の業績を顕彰するとともに、博士の愛と平和の精神を、次代を担う若い世代へ伝えていくために、平成3年に「永井隆平和賞」を創設し、広く作文や小論文を募集してきましたが、合併した雲南市でもこれを引き継いでいます。

校内では、当日までにボランティア委員会から全校生徒へ呼びかけ、有志で折り鶴を作ったり、キッチンペーパーやトイレットペーパーなどの紙の芯を回収したりしてきました。当日は市教育委員会社会教育課の山根さん、株式会社 CNC の多々納さんを講師にお迎えし、それら材料を使って吊るし飾りを作りました。まず、紙芯を加工した花びらを10枚接着して花作り、次に、折り鶴10羽とその花5個を1本の糸でつないで吊るし飾りが完成、という流れです。

花びらにはあらかじめ様々な染色が施してあり、その中から生徒たちは思い思いのデザインで花や吊るし飾りを作りました。完成品にはそれぞれの個性が描かれていました。今日の活動で、永井隆博士が訴え続けて来られた「平和を」の思いを改めてかみしめ、これからも伝えていくことが大切だと感じることができました。

永井隆平和賞発表式典は9月14日(日)に雲南市木次経済文化会館 チェリヴァホールで開催される予定ですが、その会場にこの平和を願う吊るし飾りが飾られます。



カケコーの素敵なおとこ ～掛合小学校2年生「町たんけん」来校～



7月16日(水)掛合小学校2年生10名が生活科「町たんけん」の学習で掛合分校に来てくれました。事前に「掛合分校の素敵なおとこを発見する」というめあてのもと、学校のホームページも見てくれていたようです。

音楽室での最初の会でかけこうクイズに挑戦したあと、その答え探しに講堂やコイの池、1年生教室、玄関前、3年生教室、D×ラボ、図書館など校内を探検しました。途中、職員室ではみんなが揃って大きな声で挨拶ができ、カケコー教職員からスタンプをもらったり、教室では

高校生の授業の様子を見たり、図書館では本の数にビックリしたりして、見るものすべてに小学校との違いを見つけられました。終わりの会ではクイズの答え合わせをし、発見した素敵なおとこをたくさん発表してくれました。

元気いっぱいな小学生たちの姿に、カケコー教職員も楽しく素敵なおとこを過ごすことができました。



加害者にも被害者にもならないために ～ネット安全教室～

7月18日（金）4限のホームルーム活動に、島根県警察本部生活安全部人身安全少年課の出雲少年サポートセンターから田邨少年補導職員をお招きし、ネット安全教室を行いました。

はじめに、県内に少年サポートセンターは松江・出雲・浜田の3か所あり、出雲少年サポートセンターは出雲・雲南警察署管内を管轄され、ご自身は警察官とは異なる立場であると自己紹介されました。少年サポートセンターでは、少年問題に関する専門職員である少年補導職員を中心として、子どもたちを犯罪の加害者にも被害者にもさせないために、少年相談、立ち直り支援、非行防止教育など、幅広い活動を行っておられます。

次に、ネット・SNSを使ううえでの注意事項として、次の5点を強調されました。

- ① 個人情報に気をつける → 自分を守る
- ② 言葉づかいに気をつける → 送信前に確認
- ③ ネットで知り合った人には会わない → 疑う、個人情報悪用？
- ④ 軽い気持ちでネットは使わない → SNSへの掲載：「おもしろいから」⇔「まさか」
- ⑤ 使いすぎに注意！！ → 自分の将来・生活に向けて

また、闇バイトに注意すること、薬物乱用とネット・SNSの関係について説明がありました。

最後には、一度ネット上に載せた写真・動画は消せない、自分が契約したスマホではない（注意される使い方をしない、責任をもって使う）、ルールを決めて使おうと呼びかけられました。

困ったときには保護者や教員など、しゃべりやすい大人へ相談することも大切です。

夏休みを目前にして様々なお話をしていただきましたが、一つひとつのルールをしっかり守り、充実した高校生活を送りたいと思いました。



『向き合う。その先に…』 ～1学期終業式～

7月23日（水）1学期終業式を迎えました。今年の梅雨明けは観測史上最も早い6月27日（金）に発表があり、そこからのおよそ1か月間は猛暑が続きました。今日は待ちに待った終業式であり、様々な行事が行われた1学期を終え、生徒たちの表情にも安堵の様子がうかがえます。

まず、英語検定準2級を取得した生徒2人の健闘を称え、表彰式がありました。

続いて、終業式での校長訓話では、始業式の話に出てきた「成績が伸びる秘策」

①先生の顔を見て話を聞く（幼い頃はできていたはず。成長するにつれてだんだんできなくなる）

②大切だと思ったらメモを取る（何を書き留めるべきか判断する力・要約力・集中力につながる）

に触れ、生徒それぞれが振り返りをする場面がありました。また、7月10日（木）にあった体育祭も振り返り、準備・片付けから当日の競技への取組や、応援・デコレーション・衣装、そして最後の色別ミーティングに至るまで、中心となって皆を引っ張った3年生のリーダーシップが称えられました。生徒全員が様々な場面に競い合ったことは、熱量（気持ち）を上げ、協働性を高め合うことができ、大きな経験となりました。学校教育目標に掲げる

①ふるさとを愛し人を愛し、志をもって社会に貢献する人材の育成

②自己の可能性に挑み、主体的に道を拓いていく人材の育成

はこういった経験からも得られるものなので、今後のチャレンジ精神や協力する意欲に期待するところです。そして、島根大学人間科学部の佐藤鮎美先生の講演から「リーダーシップは『才能』ではなく習得できる『スキル』」を引用し、教職員はもちろん、生徒たちのリーダーシップ

スキルの高揚に向けて全体へ紹介がありました。最後には、夏休みにして欲しいこととして、「進路実現の力ケコー」「キャリア教育」に触れ、目指す進路に関する情報収集に努めてほしいという呼びかけがありました。

暑い夏ですが、自分の進路や夏休みの課題、普段できない体験などを通してしっかりと自分に向き合い、それぞれが充実した夏休みを過ごし、無事に2学期始業式が迎えられることを願っています。

